仙台・北陵クリニック
筋弛緩剤えん罪事件

まじめに働いていた准看護師が証拠もなく殺人犯に仕立てられた…

無実の守大助さんの再審・無罪を！

無実の罪で投獄21年・北陵クリニックえん罪事件とは…

主治医の診断を
無視して
ムリヤリ事件に

事件はなかった

2001年1月6日、仙台北陵クリニックの准看護師だった守大助さん（当時29歳）は、突然逮捕されました。

警察は、入院患者A子に筋弛緩剤（きんしかんざい）を点滴に混注して殺そうとした「筋弛緩剤殺人（未遂）事件」と発表し、マスコミが連日大々的に報道しました。

ところが、警察がA子のカルテを調べたのは逮捕の10日後、血清や尿を鑑定したのは13日後です。つまり、何の証拠もないうちに思い込みで逮捕し、筋弛緩剤殺人事件の筋書が作られていきました。

当時、北陵クリニックは税金滞納で病院が市の差押えを受けるなど経営が悪化し、医師や薬剤師が次々と辞めていくなか、重篤な患者を積極的に受け入れたこともあって、治療中に急変する患者が多くいました。

警察は、これら急変患者のうち1人の殺人、4人の殺人未遂容疑で、守さんを次々と逮捕・起訴しました。しかし、守さんを犯人とする証拠は何一つありません。

守さんは裁判でも一貫して無罪を主張しましたが、無期懲役刑が確定してしまいました。その後千葉刑務所で21年も無実を叫んでいます。

2012年2月に裁判のやり直し（再審請求）を申し立てましたが、一切の証拠開示も証拠調べもされないまま、2019年11月に、再審請求棄却が確定しました。

現在、第二次再審請求を準備しています。

患者名	急変日	主治医などの診断	判決の有罪の根拠	根拠の弱点
M子（1歳）	2000年2月2日	**喘息様気管支炎、脱水症**（郁子医師診断）	「マスキュラックスを三方活栓に注射器を接続して点滴ルートに注入する行為」を認定。「最も直接的な証拠があり、独自に犯人性を確実に認定し得る」(判決294頁～)	１年も前のことなのに、現場にいた両親やスタッフら全員が細部まで一致する証言。誘導により強制された可能性が強い。(溶液が「筋弛緩剤」との証拠はない。)
A子（11歳）	2000年10月31日	**神経症状**（郁子医師診療録）**急性脳症が頭に浮かんだ**（郁子医師証言）	「被告人には、マスキュラックスを混入する機会が十分存在した反面、被告人以外の者が点滴ルート周辺に近づいた形跡はなく「自白の存在は守大助が犯人であるとの認定をさらに強固にする」(判決299頁～)	マスキュラックスの混入は全く立証されていない。A子さんの急変が点滴に原因があるとした思い込みがそもそもの誤り。自白と事実の間の矛盾(「反省文」には三方活栓はでてこない)無視。
K男（4歳）	2000年11月13日	**原因として喀痰による窒息か、てんかん発作が考えられた**（郁子医師検面調書）	「M子事件とA子事件は被告人が犯人と断ずることができるので、K男事件の犯人も被告人であることを推認させる」(判決337頁)	個別証拠を提示しないでも有罪認定が出来るのか。あまりにもずさんな事実認定。主治医の診断を無視。
O男（45歳）	2000年11月24日	**抗生剤による副作用**（二階堂院長、郁子医師診断）	「いずれの事件も同一の犯人により引き起こされたとの強い推認が働くので、O男事件の犯人も被告人」(判決367頁)	個別証拠を提示しないでも有罪認定が出来るのか。あまりにもずさんな事実認定。主治医の診断を無視。
S子（89歳）	2000年11月24日	**心筋梗塞よる死亡**（二階堂院長・主治医診断）	「いずれの事件も同一の犯人により引き起こされたとの強い推認が働くので、S子事件の犯人も被告人」(判決357頁)	個別証拠を提示しないでも有罪認定が出来るのか。あまりにもずさんな事実認定。主治医の診断を無視。

please help my innocent son！

2014年7月、ジュネーブの国連自由権規約委員会で訴える守祐子さん（右は鈴木亜英前救援会中央本部会長）

大助が、病気になったときに診療にあたった看護師さんの優しさが忘れられず、自分もあのような看護師になるんだ、と言い続けていました。

元同僚の看護師さんからは「夜勤の交代を相談すると『独りだから』といつも快諾してくれていた」と聞きました。

そんな大助が、人を殺（あや）めるような理由や動機は考えられません。

どうか無実の息子を助けてください。

守大助の母　守　祐子

【発行】仙台北陵クリニック筋弛緩剤えん罪事件全国連絡会
〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-5-13 県労連会館内
℡ 022-222-6458　Fax 022-222-6450
E-mail:kyuuenkai-miyagi@rapid.ocn.ne.jp